

菓子作りで地域に恩返ししたい



中学生に菓子作りを教える安井さん



ソクラテスミーティングで仕事の心構えについて語る



地域で菓子作りを教えるパティシエ

安井 実穂さん

やすい・みほ
希望ヶ丘在住。
西部小学校卒業後、札幌の私立中学、高校へ進む。高校卒業後、大阪の製菓学校で洋菓子作りを学ぶ。現在は市内のカフェで働きながら、飲食店やイベントなどで菓子の販売をしている。
西部中学校と西部地区生涯学習振興会が合同で開いている菓子づくり教室で、中学生の運営委員に指導している。

菓子づくり教室

西部中学校の生徒が小学生に菓子作りを教える教室が3年前から開かれている。小・中学生が交流しながら、社会性を身に付けることを目的に、西部地区生涯学習振興会と西部中学校が行う合同事業だ。中学生に指導法を教えるのはパティシエ・安井実穂さんだ。

昨年はフォンダンショコラ（中からチョコレートを溶け出すチョコレートケーキ）の作り方を指導した。作業工程が多く難しい菓子だが、本格的なものを作ることで、達成感を覚えてほしいと取り組んだ。中学生たちは一生懸命に学び、本番では身に付けたことを実践して、しっかり小学生に教えた。

教室の様子を見守った安井さんは「プロが作るものと同じ菓子が作れたことは、子どもたちにとって大きな自信につながると思います」と話した。子どもたちが真剣

にオーブンを見つめ、出来上がった時の歓声を上げる様子に、自分も感動を覚えたそう。

仕事の心構えを伝える

昨年10月、西部地区生涯学習振興会が主催する「ソクラテスミーティング」に、講師の一人として参加した。西部中学校3年が、さまざまな職業の方々と対話し、仕事のやりがいや心構えなどを学ぶキャリア学習の一環だ。

パティシエになるにはどんな勉強が必要かと質問があった。「菓子作りの勉強だけではなく、今学校で学んでいること全てが、将来必ず役に立つので、おろそかにしないように」と答えたそう。クリスマスやバレンタインデーの時は、特に忙しいと話すと、生徒たちから「デートもできないんだね」との感想があった。将来の仕事を選択する上での悩みなど、率直に對話ができたと感じた。

夢の実現に向けて

子どもの頃から友だちと菓子を作るのが好きで「将来はケーキ屋さんになりたい」と思っていた。

現在は「THE DAY」というブランド名で商品を飲食店などに置いたり、イベントで販売したりしている。

夢は市内で自分の店を持つこと。そのために準備を進めているところだ。菓子とコーヒーを味わいながら、本も読めるブックカフェにしたいと考えている。本にこだわりたいと考えている。本にこだわりたいのは、子どもの頃、地域の読書ボランティアに本の紹介や読み聞かせをしてもらったのが楽しかったからだ。店内では菓子作り教室を開きたいと夢は膨らむ。

菓子作りを教えることは、自分を育ててくれた地域への恩返しと語る。

夢をかなくて、まちを明るくするような店を開いてほしい。

